

はじまりは、 眼レフで練習を始めたことに遡る。 仕事で写真を撮らなければならない状況になり、 上手になりたい一心から

何ごとも基本が肝心と考え、通信教育の写真講座を受講した。

被写体のテーマを絞るという課題の中で、 たまたま当時、 日本の滝百選(緑の文明学会出版)

日本の名瀑」 の写真集が目に止まり、 元々、 自然の 山へ行きたいという思いもあり、

被写体に滝を撮っていけば上達するだろうと考えた。

森には森林浴があるように滝にはマイナスイオン浴がある。 小さな滝には安らぎを感じる。 大きな滝は躍動感があり、

レス解消、

気分転換、

心の洗濯など

最高の癒しが得られる不思議な魅力がある。 大自然の中に自分を置くことで、

滝見行には、

自然の恵みに感謝 し、「滝を見に来てやった」ではなく「滝を見させてもらう」という

感謝の念を持つことが、 山から無事帰れるための儀式であると、 常に心得としている。

丸神 の滝



玉 県

七六m

滝の虜になってしまった。 のかと思ってしまう。 途中、百とはこんなに沢山な ば選んでしまったと言うか、 体として滝を選んだ。今思え 写真撮影の実力UPに被写 滝撮影開始の最初の一滝。 反面、

小森川に注いでいる閑静な滝 ベスト森林浴を感じる。 両神山一、七二四mの麓、 観瀑台から眺めていると

総 行 九 〇 年 四四七八八八 km km 日

が楽しめる。 とも呼ばれ、 四季折々の表情



七 三 月 九 一 一 km km 日

華厳の滝・



九 七 m

栃

木 県

である。 智平から見る景色はパノラマ第二いろは坂の展望台、明

総行九九〇十年 一、三七〇km 六五一四日

霧降の滝・

心和やかになる。 しいが、滝壺へ下り、岩を滑 るように流れる水を見るのも、 るように流れる水を見るのも、

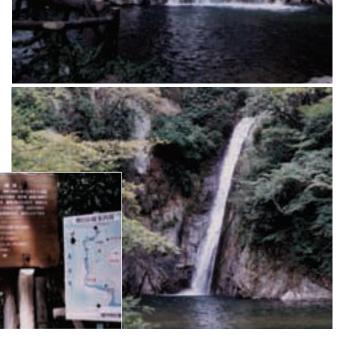


布引の滝・



四 三 m

兵庫県



乳白色にもなり、変化に富んり、藍色、淡青色、茶褐色、茶褐色、淡青色、茶褐色、

だ表情が楽しめる。

総計 二、四六四㎞ 九月二日

5

木県

七 五 m

六 〇 m

東 京 都

たことからその名がついたと 僧侶の払子を垂れた様に見え 滝の水が流れ落ちるさまが

美をみせてくれる。 冬の氷結した滝は自然の造形 幻想的な世界が広がる。また、 される滝まつり(八月中旬~ が神秘的だ。真夏の夜に開催 下旬)ではライトアップされ、 エメラルドグリーンの滝壺

探訪73より) (一九九五)八: (広報東京都第五八六号日七 ふるさと





総 行 九 九 〇 年 二、六二七km 一六三km

七つ釜五段の滝・

五 〇 m

梨 県

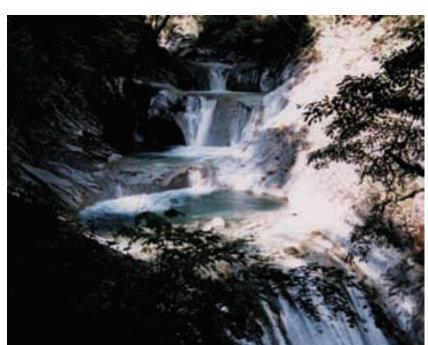
れていた。 すばらしい。 いう遊歩道に鉄道線路が残さ 秋の紅葉はとくに、とくに

軽便軌道跡を御利用下さいと

登路は渓谷歩道を、

帰路は





てごうごうとこだまを響かせ れ込んだ谷は蛇行を繰り返し 滝があり豊富な水量と鋭く切 れ出して大武川へそそぐ石空 南アルプス鳳凰三山から流 この渓谷には大小七つの

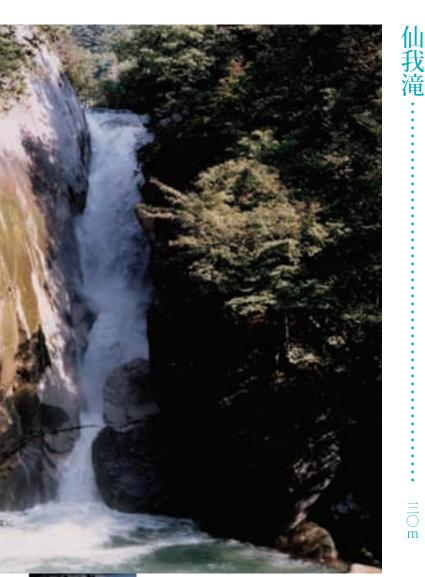
石空川渓谷を代表する滝で落 なかでも北精神ヶ滝はこの

> ある。 者が遭遇し不帰の人となった。 こを通りかかった滝撮影関係 落ちる滝はまさに豪快である。 いつも思う、 ローチで崖崩れがあった。そ そして冬の氷瀑もみごとで いつかこの滝へのアプ 山は怖い。



総計四、一〇月二〇日 二四㎞





 $\frac{\equiv}{\bigcirc}$ m

県

昇仙峡渓谷にかかる三

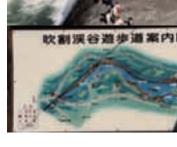
見ていても飽きない滝で をなし、味わいのある、 をなし、また明るい表情 の表情が落ち着いた表情 段からなる名瀑。 陽光の有無により右岸

総計四、三九七㎞ 一九九〇年一〇月二一日

るが、遊歩道の上より見る滝 なりながら見るのも迫力があ もすばらしい。 がら、滝に吸い込まれそうに 滝の流れの水に足をつけな







総 計 四、七三四km 行程 三三七km

棚下不動の滝・

三 七 m

群馬

県



という滝の周囲は静寂さと仙造の不動明王が祀られている 境を感じさせる。 り、岩窟の不動堂奥院には石田段下には棚下不動堂があ

裏見の滝でもある。

総行和〇年 ¥ 一 二 九 五 九 太 上 大 上 上 上 上 上 上 上 上



総 計 六、〇九七km 行 程 一、〇六八km

いると時間の経つのを忘れる。

酒水の滝:

この滝は修験の滝でもある。 名水百選にも選ばれている。 六九メートル三段からなる



奈 Ш

県

六 九 m

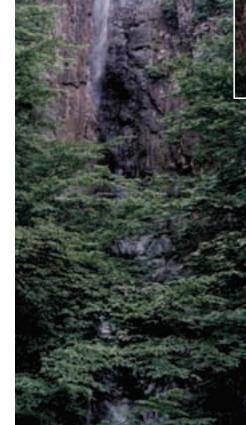
総 計 六、二八一km 行程 二月一六日



滝の前には大岸壁があり、

六、四七三㎞





落下する純白の流水は雄大で 観瀑台から見る、断崖から

三階の滝・

紅葉時見る滝は尚最高であ

総 計 七、二六四km 行程 七九一km





宫 城

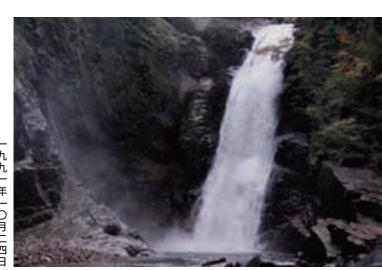
県

一 八 一 m



煙となって上空に舞い上がる。 ちた水は滝壺で跳ね返され水 ナスイオン百%である。 滝壺で眺める雰囲気はマイ 高さ五五mを一気に流れ落





総 計 七、二六七km 行程 三km

銚子ケ滝・

とから名付けられた。 酒を入れる銚子に似ているこ この滝の名称の由来は形が

られたかもしれない。 った方がもっと銚子の形が見このアングルより左岸へ渡



総計 七、二八二km 行程 一五km 一九九一年一〇月二六日

四 八 m

島

県

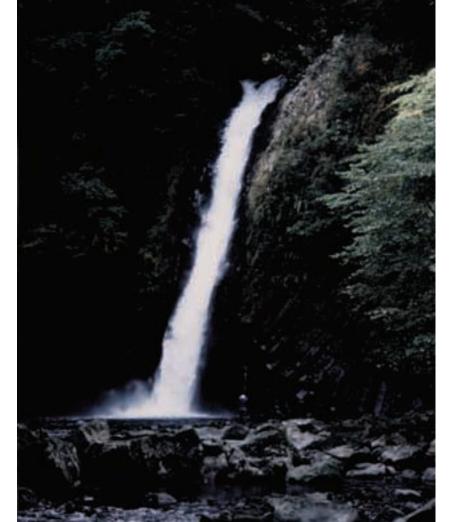
ことから名付けられた。雄大 滝の形が乙字をなしている な滝である。

総 計 七、二八四km 行程 二km





一 総 行 九 計 程 一 年 七、九三六㎞



った。

を操る釣り人が印象的であ

滝壺の轟音のなか、釣竿

は風格がある。

豪快に滝壺に流れ落ちる様

わずか二五mではあるが、

浄蓮の滝:

五 加

岡 県

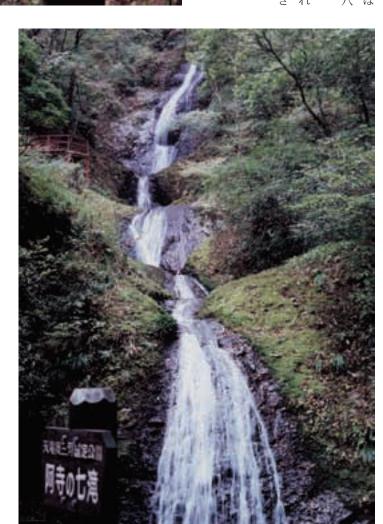
福島県

: 六 m

となっている。 二番目と五番目の滝壺は甌穴 礫岩から流れる七段の滝は

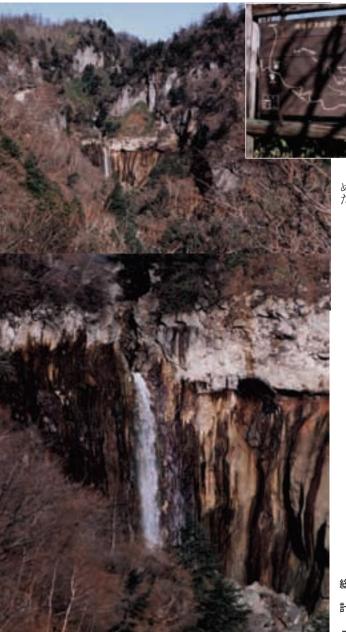
を与えてくれる。 てくる滝を見ていると安らぎ最下段の滝壺にいて、流れ





総計 八、二五八㎞ 7 程 三二二㎞





峠草津探勝歩道から遠くに眺行が必要という秘境の滝。渋流壺へ行くにはガイドの同

しい光景を見させてもらう。いつか滝壺に行ってすばら

総行九九十年

馬 県

八七〇三㎞

水とも言う。 の水という、 この滝の水は万病を癒す薬 そして若返りの

しまった。 この滝の見える食堂にいた 私も飲んで来た、若返って

婦と出合った。 可愛い娘さんを連れた夫

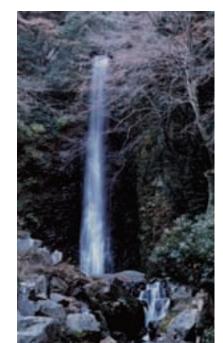
ご主人に"海外の滝を見た



残る一つも見に行きたいと

う。。その滝は見事と言うほか 多分イグアスの滝だったと思 個目であり、海外までは全く 激しますよ、と言われた。 はなく、是非見に行ったら感 ことがあるか、と問われた。 日本の滝を廻り始めて二二

界三大名瀑の二つを観瀑した。 考えていなかった。 日本百名瀑を廻り終わり、世 くとは思ってもいなかった。 まさか海外の滝まで見に行 このメモを書いている今、





総行九九十十年年 九、五五六㎞ 一二月七日



ち着く滝が沢山あるが、私は 心癒される、荷担(にない)滝

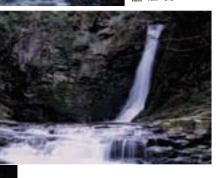
内にある全長約四㎞、往復約

室生・赤目・青山国定公園

赤目四十八

滝・

総計一(〇、六八六㎞四月一二日



重 県

五 m

作ってみたい方は ここをクリック!

お気軽にメール下さい